

様式 A 長期インターンシップ（専攻科教員）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	長期インターンシップ Long Term Internship		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門・実験・実習	授業形態・学期	その他・通年
	対象学生	専攻科・全学年全専攻	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	特別研究担当教員全員		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	工学／機械・電気電子・電子制御・情報工学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(6)校外実習，先端技術特別講義や学協会への参加を通じて，地域社会との連携を図るとともに，地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目の学習・教育到達目標は主として「(H) 地域社会との連携による総合能力の展開，H-1：地域社会との連携した学習や研究などの協働活動をとおして，専門分野を理解し（もしくは専門的観点から生産システムを理解し），説明できること」であるが，付随的に「F-1」，「A-2」，「D-3」および「G-1」にも関与する。		
	授業の概要	企業等学外機関において実質 4 週間程度もしくは 140 時間程度の実習を行う。□		
	学習目的	インターンシップの目的は，実社会の技術と遊離しないように，知識を深め，研究能力の向上を目指すことである。専攻科では特別研究の一環として 30 時間程度の校外実習を義務付けている。しかし 30 時間という短い時間では習得できない項目が多くあると考えられ，長期のインターンシップ（4 週間程度，140 時間程度）を選択科目（2 単位）として，上記の短期校外実習と選択できるようにした。□		
	到達目標	1. 社会との連携した学習や研究などの協働活動をとおして，専門的視点から実習内容を説明できる ◎技術者が社会に負っている責任と独創性を認識できる ◎協働活動をとおして自己の役割を理解するとともに他者に適切に働けるためのコミュニケーションができる ◎企業活動を通じて，自らのキャリアデザインができる		
履修上の注意		実習に行く際には必ず保険に加入すること。		
履修のアドバイス		会社の規律は必ず守ること。実習生の評価は学校の評価につながり就職にも影響する。		
基礎科目		これまで学習してきた科目全般		
関連科目		特別研究Ⅰ，Ⅱ（専 1，2 年）		

授業にかかわる情報			
授業の方法		企業等において実際の業務に携わり，実習を行う。学内で実習終了後に審査会を実施する。	
授 業 計 画	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	通 年	学内学習	● ガイダンス(学年初め) ● 研修企業の決定 ● 担当教員・企業担当者との実習内容の確認 ● 報告会の準備(夏季休業終了後) ● 実習内容の報告および審査
		学外実習	
教科書，教材等		実習先で配布される資料等	
成績評価方法		企業からの評価シート(60%)，報告書(20%)および発表会(20%)で評価する。	
受講上のアドバイス		機密保持には注意すること。また各種ルール（特に安全に関するルール）は必ず遵守すること。専攻科長期インターンシップ実施心得を熟読するとともに，オリエンテーション（キャリア教育を含む）を必ず受講すること。	

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安（優）		標準的なレベルの目安（良）		未到達レベルの目安（不可）		
評価項目 1	専門的視点から実習内容を報告書と発表で説明でき、実習内容を理解してもらえる。		実習内容を報告書と発表で説明できる。		実習内容を報告書と発表で説明できない。		
評価項目 2	企業の社会に負っている責任と独創性を理解し、説明することができる。		企業の社会に対する責任を示すことができる。		技術者が社会に負っている責任を理解できない。		
評価項目 3	実習を通して、自己の役割を理解して、他者と十分なコミュニケーション（発表等）できる。		実習を通して、他者とコミュニケーション（発表等）できる。		他者とコミュニケーション（発表等）できない。		
評価項目 4	企業経験を生かし、自らのキャリアを計画的に考え、十分に説明できる。		企業経験を生かし、自らのキャリアについて説明できる。		自らのキャリアについて説明できない。		
評価割合							
	企業評価	報告書	発表				合計
総合評価割合	60	20	20				100
基礎的能力	0	0	0				0
専門的能力	40	15	10				65
分野横断的能力	20	5	10				35